

## 平成31年度予算の要求について(ポイント)

### 1 構造的財源不足はゼロとなっているが、平成31年度の財政環境は引き続き厳しく、予断を許さない状況（要調整額は約31億円）

- 平成17年度予算編成前の段階で約400億円と見込まれた財源不足については、職員数の削減・公の施設の見直し、マイナスシーリングの設定による事務事業の見直しなど徹底した行財政改革により、平成28年度当初予算編成において解消。
- しかしながら、平成31年度は、「骨太の方針」において、地方一般財源総額を2021年度まで今年度地方財政計画の水準で実質的に確保するとされた一方、国の取組みと基調を合わせた歳出改革等に取り組むこととされていることに加え、社会保障関係費が高齢化の進展等に伴い増高すること、新幹線建設等に係る公債費が高い水準で推移すること等から、現時点で約31億円の要調整額が見込まれるなど、本県財政を取り巻く環境は厳しく予断を許さない状況。

### 2 予算要求基準の概要

#### (1) マイナスシーリングの設定

ゼロベースの見直しによる財政健全化の努力を継続するとともに、スクラップ&ビルドを徹底し、政策の重点化・効率化を促進。

#### (2) 「とやま未来創生戦略枠」の設定

「とやま未来創生戦略」（2015～2019）に基づき、人口減少対策や、将来に向け持続的な地域活力創出を図る施策で、高い効果が見込まれる取組みに重点配分。

#### (3) 「とやま新時代重点政策枠」の創設

とやま新時代への新たな挑戦を掲げる新総合計画の政策目標実現に高い効果が見込める重点政策とし、特に「新・富山県ものづくり産業未来戦略」や「富山県における人生100年時代ひとづくり構想」を見据えた政策、人材の育成・確保対策、富山きときと空港の活性化、教育・文化環境の充実、防災・減災対策をはじめ安全・安心の確保などの政策に優先的に配分。

< 予算要求基準（詳細は別紙のとおり） >

1 重点政策経費	(1) 「とやま未来創生戦略枠」	… 事業費で概ね25億円
	(2) 「とやま新時代重点政策枠」	… 要求枠上限は設けない
	(3) 「水と緑の森づくり枠」	… 水と緑の森づくり税の範囲内
2 投資的経費	国の予算、地方財政計画等を踏まえ、予算編成過程で決定	
3 一般行政経費	△15%（=H30）	
4 経常的事務経費	±0%（=H30）	
5 試験研究費	±0%（=H30）	

#### (4) 消費税率引上げへの対応

- ① 税率引上げに伴う支出増については、適切に反映（上記要求基準に上乘せ）。
- ② 税率引上げとあわせて行うとされる幼児教育無償化などの施策や税率引上げに伴う需要変動に対して機動的な対応を図る観点から行う臨時・特別の措置等への対応については、現時点では不明確な点が多いため、国の予算編成の動向等も踏まえ、機動的に対応。